

JICA草の根技術協力事業

「ベトナム国キエンザン省における水環境改善のための人材育成プログラム」 —平成27年度（3年次）活動報告—

今年度もベトナム国キエンザン省にて平成27年5月と9月、神戸市にて平成27年11月末より3度の研修を実施後、1月には省の行政機関である、キエンザン省人民委員会に対し、成果の最終報告会を開催することができました。以下のとおり、今年度の活動を報告いたします。

住民向け水環境改善啓発パンフレット“身近なところから水環境改善”の完成！

昨年からベトナム側プロジェクトチーム内で試行錯誤しながら編さん作業しましたキエンザン省住民へのための水環境改善啓発パンフレットが出来上がりました！

内容は①現状の水環境が生活にどのような悪影響をもたらすのか②水環境を改善するために何をすべきかといった基本的な事から③浄化槽の維持管理といった少し専門的な事まで含まれて構成され、写真やイラストを用いて分かりやすく説明された冊子となっています。浄化槽の維持管理が今回のパンフレットに含まれているのは、下水処理場がまだ建設されていないキエンザン省では、水洗トイレを設置している家庭は浄化槽を使用しており、水環境改善のためには必須となるからです。

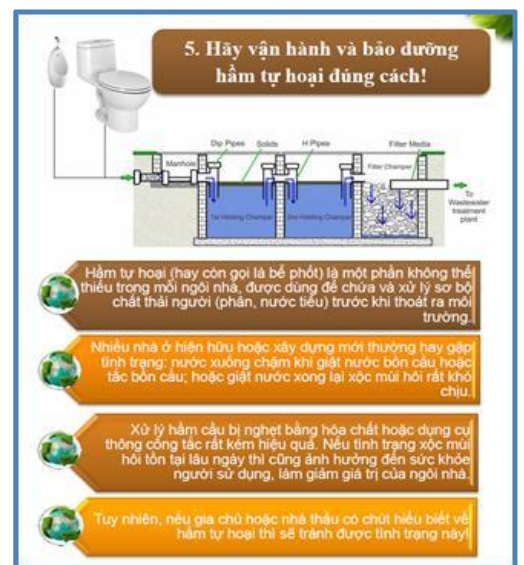
パンフレット完成後、キエンザン省の省都ラクザー市内では、ベトナム側のプロジェクトチームによって選定された6地区約250人の市民を対象に今回作成したパンフレットを配布、その内容について説明し、水環

境に関するアンケートに回答してもらいました。アンケート結果から、①住民の多くが水環境の悪化について危機感を持っていること、②何らかの対策をとるべきという認識があること、また③啓発パンフレットの内容について理解され、④そのまま啓発ツールとして使用できることなど様々な現況がわかりました。このアンケート調査実施作業をベトナム人メンバーのみで運営してもらうことで、住民目線でのわかりやすい啓発資料を作成することの必要性

や、水環境の改善や保全のためには行政主導のみならず住民自らの取り組みが不可欠であることを学んでいただきました。



ラクザー市内の集会所にて。出席された市民に水環境と啓発パンフレットのアンケートを回答してもらうため、ベトナム人メンバーの一人が主旨を説明しています。



左) 住民向け水環境改善啓発パンフレットの表紙。タイトル名は「身近なところから水環境改善」。

中) 12ページあるパンフレット中の1ページ。ゴミを川や海に捨てるとうなるか説明しています。ちなみに、... 上半分の写真は”良い水環境“の写真です。日本での水質の良い川は透明あるいは緑色といったイメージが大きいですが、海外では赤土の土地の場合、茶色い川も一般的に多く存在します。

右) 同じくパンフレットの1ページ。なぜ浄化槽の管理が必要か説明しています。

神戸の市民活動を視察、市民の皆さんの取組 みに関心を寄せる...

神戸市で実施した研修は、市民によって管理されている水路や、河川の清掃を行う市民団体の現場視察や講義を通じて水環境の改善に取り組む市民主体での活動の重要性についてプロジェクトチームに学んでいただきました。

ベトナム人メンバーからは市民の自ら水環境改善



左)神戸市兵庫区の「松本のせせらぎ」を視察。「松本のせせらぎ」は阪神・淡路大震災後、震災での教訓を生かし、災害時の消火用水・生活用水として利用できるよう「下水の高度処理」を利用した、人工の小川です。ここでの維持管理は近隣住民に任されています。

右)神戸市内でのプロジェクト報告会。多くの神戸市側関係者が出席され、ベトナム人メンバーから完成した水環境改善パンフレットの紹介、3年間のプロジェクトの成果を発表されました。

に取り組む姿勢に「父親と同じくらいの年代の人たちが、水環境の改善のために活躍していることにとても感動しました。」といった感想や、市民団体からは、「多文化を知る貴重な体験ができました。」と意見が寄せられ、プロジェクトチームと神戸市民双方にとって有意義な研修となりました。また水環境改善には何よりも市民の理解と協力が不可欠であることが改めて理解されました。



～3年間のプロジェクトを振り返って～

キエンザン省ラックザー市にあるキエンザン省人民委員会の大会議室にて本プロジェクトの最終報告会を開催しました。日本・ベトナム両国のプロジェクトメンバーはじめ、当公社理事長含む各代表者も出席し、キエンザン省の水環境改善の必要性を広く共有することを目的として行いました。

最初に、ベトナム人プロジェクトメンバーによる上述の啓発パンフレットを含むキエンザン省内の水環境改善のための具体的な方法について説明があり、住民への効果的な啓発には今回作成されたパンフレットの他に啓発を先導する指導者へのマニュアルも必要ではないかなど、活発な意見交換がされました。また前年から考案してきました水環境改善行動計画案は、各項目について具体的に「だれが行うか」「どのように行うか」関連部局の役割を明確化させるため再度分析、修正することで、より実効性の高くなった計画案を人民委員会に提出することができました。今回の報告会において、この計画案を今後キエンザン省内で6か月に1度、進行状

況を確認・見直しを図り水環境改善の方策に取り組んでいくことも併せて決定されました。この決定は多様な機関から参加したプロジェクトメンバーが水環境改善の必要性を理解し、水環境改善は単独の部署で解決できる問題ではなく、各機関が協力して取り組む必要があると理解された結果から生まれました。

当公社を含む日本側関係者にとっても本プロジェクトでの水環境問題を学ぶ手法は神戸市が蓄積してきたノウハウを若手職員に伝承する有効な取組みにもなりました。

今後もキエンザン省・神戸市間で培ってきた関係を維持するとともに、キエンザン省のモニタリングを支援していきます。



キエンザン省人民委員会の大会議室での最終報告会。最後まで活発な意見交換が行われました。